

石山寺校倉聖教の目録

歷史研究室

石山寺所蔵の聖教の目録については、『年報1993』で密蔵院所蔵の聖教目録「石山寺密蔵院経蔵聖教目録」を紹介した。その目録は、現在深密蔵聖教として一括されている聖教群の江戸時代末期における所蔵状況の一端を示している。石山寺には、それ以外にも数多くの書跡目録が寺誌函や深密蔵聖教中に伝存し、いろいろな時期での、各院坊内の聖教類の所蔵状況が判明する。ここでは石山寺の中心の聖教群の一つである校倉聖教と称される聖教の目録を紹介する。

校倉聖教は、石山寺本堂の後方の斜面にある校倉経蔵内に収納されていたところから命名されたもので、明暦年間に新造された三十合の経箱に分類収納されている。すなわち当時石山寺に所蔵されていた聖教の内から、時代的に平安時代に書写されたと目されたものを取り集めたものである。現在、この校倉聖教は重文に指定されて、収蔵庫の豊淨殿に移管されている。ここに数合の経箱の墨書銘を掲げたが、この新調に関する墨書銘は三十合の経箱いずれにもあり、明暦元年（1655）9月に一括新造されたことがわかる。また各経箱には、それに収納されている聖教の目録が蓋裏に墨書されており、明暦当時の校倉聖教の分類収納状況が、ある程度判明する。そして、校倉聖教については、その後安永5年（1776）9月に尊賢が作成した目録「石山寺聖教目録」が存在する（寺誌函18号）。それは書入れ、付箋などがある尊賢の草稿本であり、尊賢の浄書本は伽藍経蔵に奉納されたことが、その奥書から判る。その尊賢作成の目録をさらに江戸時代最末、慶応3年（1867）3月に尊信少僧都が書写している（深密蔵第120函11号）。ここにその転写浄書本である尊信書写本を抄出であるが紹介する。なお尊賢書写本の奥書は、尊信書写本の釈文で本奥書と注記したところまである。なお尊賢は、文化12年（1815）11月、81歳の長寿で遷化した密蔵院第13代住職で、「石山要記」「石山寺年代記録」「石山各院記」などを選述し、また一切経や校倉聖教、薫聖教の整理修補も行っている学僧である（「尊賢僧正略伝稿（寺誌函28号）」）。それをさらに今度は法輪院の尊信が聖教護持のため転写浄書しており、山内住侶の聖教に対する意識が判る。

また石山寺における校倉聖教の明暦当初の分類収納が、この目録を仲介として、現在の状況(『石山寺の研究』所収校倉聖教目録)との対応関係において比較検討できよう。例えば第7函について、蓋裏墨書銘に経軌、三昧耶戒作法、胎藏界作法、金剛界作法の4結で27巻14帖とあるが、尊賢目録もまた本軌、三昧耶戒、胎藏界、金剛界に分かち、各々に書名を掲げてあり、明暦の分類をうかがいうるとともに、それ以後の移動については現目録との比較により推定できるのである。(綾村 宏)

金剛頂瑜伽三十七尊禮

同蓮花部心念誦儀軌

三摩地法 池上點

金剛頂義訣

三十七尊出生儀

同必要

瑜伽三摩地

同供養次第法

同蓮華花部念誦法

不空三昧大教王法

瑜祇二

瑜祇經

同惣行法私記

又(梵字□□)経立印

同隨意別行法

同私記 千心

金剛大吉祥成就品

三昧耶品次第觀念

相應經指事

瑜祇經修行法

真如金剛安然

第十三箱

金剛界之余

次第三

金剛界次第

同略次第

同念誦私記

同法皇

同次第 小島

同略次第 神樂岡長慶公

一帖

四帖五卷

二卷

二卷

一卷

一卷

一卷

一帖

十卷五帖

一卷一帖

一卷六帖

一帖

一帖

一帖

一帖

一帖

同記

同儀軌次第

同抄

蓮花部心念誦次第 少僧

三摩地儀略次第

金剛界大儀軌記

(中略)

三十箱

雜著部十八之余

顯戒律

授菩薩戒法

授戒作法

五分比丘尼戒本

菩薩戒疏

自恣羯磨作法

四分戒本

羯磨作法

布薩要文

菩薩戒本

東大寺戒壇院受戒式

羯磨作法

布薩要文

菩薩戒本

東大寺戒壇院受戒式

羯磨作法

布薩要文

菩薩戒本

東大寺戒壇院受戒式

羯磨作法

布薩要文

菩薩戒本

二卷

一卷

一卷

一卷

一卷

一卷

一卷

一帖

○校倉聖教經箱墨書銘

〔第一函〕

(蓋表)

石山寺

聖教箱

請來錄部

第一箱

請來錄部

第一結

二十卷

一結

九卷

新調

令納御筆聖教寫也

都合四結五十九卷

新調

(底裏)

明暦元乙年

九月吉日

未

卅内

石山寺

聖教箱

請來錄部之余

第二箱

請來錄部

三十四卷

一結

二十卷

十一卷

都合四結八十卷

〔第二函〕

(蓋表)

石山寺

聖教箱

請來錄部

第一箱

請來錄部

一結

二十卷

新調

令納御筆聖教寫也

都合四結五十九卷

新調

(底裏)

明暦元乙年

九月吉日

未

卅内

石山寺

聖教箱

請來錄部

三十四卷

一結

二十卷

十一卷

都合四結八十卷

新調

令納御筆聖教寫也

都合四結五十九卷

新調

(底裏)

〔第七函〕

(蓋表)

石山寺

聖教箱

灌頂部

請來錄部

第一箱

請來錄部

一結

十卷七帖

新調

(底裏)

明暦元乙年

九月吉日

未

卅内

石山寺

聖教箱

請來錄部

十卷七帖

一結

十卷七帖

新調

令納御筆聖教寫也

都合四結五十九卷

新調

(底裏)

諸師灌頂大政官牒文	複一卷	大日經義釈	十一帖 欠 文一一交
教禪灌頂記	一卷	同疏	一卷一帖 欠
明海念範行海灌頂注進等	一卷	同疏第一抄	一卷
耳呂王院灌頂記	一卷	同經略疏	三帖 欠
勝福院灌頂記	一卷	同供養次第法疏	一帖 欠 三卷
興然灌頂記	一卷	同演密抄	三帖 欠
灌頂官符 天台	一卷	同住心品疏私記	八帖 欠
延曆寺灌頂行事	一卷	同疏略抄 真興	一帖 文一一
第九箱	一卷	同秘要抄	二帖 欠 文一一
胎藏界部第三 此部之中別而為四	一卷	大悲胎藏普通大曼多羅記	六帖 欠 文一一
大日經	一卷	台藏界儀軌解釈	三帖 欠 文一一
同供養次第法	一卷	同八葉諸說不同記	一帖 文一一
同持誦次第儀	一卷	同秘密小島	一帖 文一一
同成就儀軌	一卷	同兩伝目六	一帖 文一一
同略攝念誦隨行法	一卷	理界私記 天台	一帖 文一一
大毘盧遮那經廣大儀軌	三帖 文一一	東曼多羅抄	一帖 文一一
同成就法	三帖 文一一	中台八葉觀行玄義口決	一帖 文一一
同佛說要略念誦法	三帖 文一一	百光遍照玉義問答抄	一帖 文一一
同真言五字儀軌	三帖 文一一	(□□□梵字)抄 千心	一帖 文一一
同字輪瑜伽儀軌	三帖 文一一	胎疏井儀軌等序要文 千心	一帖 文一一
胎藏秘密大軌	三帖 文一一	大日經中住阿字門觀	一帖 文一一
胎藏私記 劍 △石流開書	三帖 文一一	三部曼茶 人水僧正	一帖 文一一
同僧真誓本	一卷 欠	靈嚴和尚有台藏根本密契	一帖 文一一
同南洞記	一卷 欠	第十二箱	一帖 文一一
同高大夫	一帖 文一一	金剛界部第四 此部之中別而為四	一帖 文一一
胎藏私記	一帖 文一一	金剛頂經	三卷 欠
同次第 禪林寺大僧正院唐記云々	一卷	略出念誦經	五卷
胎藏界第三之余	十二卷 欠	諸佛境界摸真寶經	一卷
疏积二之余	第十箱	分別聖位經	一卷
大日經義釈			

